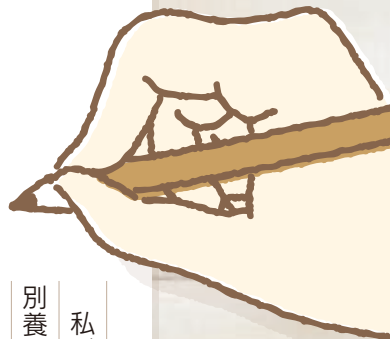


月寒あさがおの郷
ユニットケアワーカー

まつ もと りゅう や
松本 竜弥

わたしからの

ありがとう



溪仁会職員が、患者さん、利用者さん、
仲間とのエピソードを綴ります



私が働いている月寒あさがおの郷はユニット型の特
別養護老人ホームです。日々働くなかで「ありがとう」
と感じる瞬間はいくつもあります。先日、ある入居者
さんから「どうしても見たい番組があるのにテレビが
映らなくて困っている」とお話がありました。お部屋
へ見に行くとテレビの主電源が消えておりリモコンで
は電源がつかなかったようで、テレビが映ると「いつ
もありがとう」と笑顔で言ってくれました。その
時私は「こちらこそありがとうございます」と言葉が
出ました。日々入居者さんとかかわりを持つなかで感
謝の言葉をかけてくださることは多く、そのたびに
やっていてよかったとやりがいや嬉しさを感じ、同時
に感謝の気持ちがこみ上げます。

また、チームケアとして入居者さんによりよい支援
をするためにはともに働く職員の存在も必要不可欠で
す。なかでもパート職員の方への感謝の気持ちも計り
知れません。現在、一日のなかでユニットに常駐する
職員と、フロア全体を行き来する職員を配置していま
す。パート職員が全体の行き来をすることが多く、そ
のおかげで私はユニット業務に専念できています。ま
た、業務のなかでさまざまな視点でアドバイスをして
くださることが多く本当にいつも助けられています。

医療、福祉の現場において人が支え合うなかで感謝の
言葉はとくに大切だと感じます。日々「ありがとう」の気
持ちは忘れず周りの方々に伝えていこうと思います。